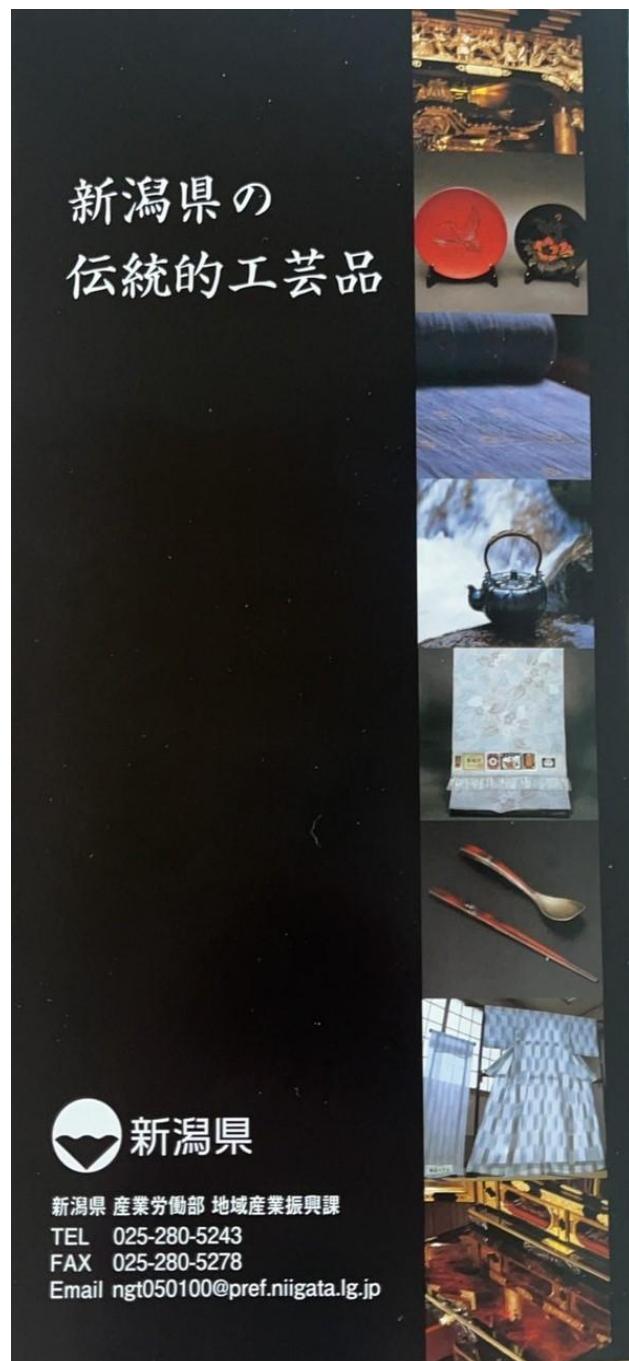


物品協賛

〈パンフレット〉

『新潟県の伝統的工芸品』※後半が英語版

提供：新潟県 産業労働部 地域産業振興課 地場産業振興課





## 佐渡無名異焼 (さどむみょういやき)

SADO-MUMYOIYAKI

ref P.II



江戸時代より続く  
佐渡島の伝統

江戸時代中期に佐渡奉行にて  
佐渡産の焼き物が奨励され、本  
格的な佐渡生まれの施釉陶器  
(せゆうとうき)が作られました。  
江戸時代後期には無名異焼  
(むみょうい焼)と呼ばれる赤土  
を混ぜた陶土で楽焼(らくや  
き)が作られ、これが無名異焼  
の始まりと言われています。そ  
の後、明治時代に高温で焼成  
する堅硬な無名異焼が完成し  
現在に至ります。

【令和6年10月17日指定】



佐渡島内で産出する  
赤土で焼き上げる  
佐渡島の伝統

無名異焼の特徴と言える無  
名異土(赤土)は酸化鉄を大  
量に含んだ赤色の鉱土のことを  
言います。この無名異土は古く  
から止血剤等の薬に用いられ、  
佐渡でも薬用として販売され  
ていたという説もあります。  
佐渡では、その無名異土を薬  
地土に混ぜて赤色の器を作った  
ため「無名異焼」として親しま  
れるようになりました。

主な商品

- 花瓶 ○茶器 ○皿 ○酒器 ○カップ ○箸置き

産地組合名

佐渡無名異焼の会 〒952-1557 新潟県佐渡市相川一町目1(無名異陶芸伊藤赤水内)  
① 0259-74-2127

## 村上木彫堆朱 (むらかみきばりついしゅ)

MURAKAMI-KIBORI-TSUISHU

ref P.II



【昭和51年2月26日指定】

### 彫刻と塗りの結晶品

江戸時代に江戸から伝えられた技法を基にしています。朴(ぼち・板(いた)・桂(かつら))などの木地に繊細な彫刻を施し、その彫刻をより引き立てるために、天然の漆のみを使って塗り重ねるという独特の塗りの技法を用います。代表的な堆朱は朱の上塗りを艶消しに仕上げ、落ち着いた肌合いが特徴です。



### 村上木彫堆朱会館

組合員による村上木彫堆朱を一堂に展示販売しています。館内には、お手軽にご使用いただけるお箸や、装身具を始めとして、茶托や菓子器などの実用品も多数取りそろえています。会館は年末年始を除き、ほぼ無休で来館者をお迎えしています。(臨時休業あり)事前にお問い合わせください。

主な商品(税抜価格)

- |           |    |    |          |
|-----------|----|----|----------|
| ○茶托4寸5枚組  | 牡丹 | 唐草 | 38,000円~ |
| ○鉄鉢型菓子鉢8寸 | 牡丹 |    | 19,500円~ |
| ○朝顔型菓子鉢8寸 | 牡丹 |    | 13,500円~ |

産地組合名

村上堆朱事業協同組合 〒958-0032 村上市松原町三丁目1番17号(村上木彫堆朱会館内)  
① 0254-53-1745  
④ 0254-53-3053  
✉ tsuishukumi@sq.jp  
✉ https://tsuishukumi.jp





## 漆器 (にいがたしき)

SHIKKI



ref P.II



多彩な塗り。

江戸時代の初めに漆器作りが始まつたとされています。新潟漆器の特徴は、多彩な塗りです。特に竹塗りは下地の竹と見間違えるほどです。

【平成15年3月17日指定】



暮らしの提案

新潟漆器を使った

主な商品(税抜価格)

○mitate竹塗筆 5,000円~

※オンラインサイトでのみ販売 <http://niigatasikki.jp>

産地組合名

新潟市漆器同業組合 〒953-0104 新潟市西蒲区岩室温泉879-9  
(新潟漆器製造株式会社内)  
○ 0256-77-5450 ☎ 0256-77-5451  
✉ contact@niigatasikki.jp  
□ <http://niigatasikki.jp>  
■ <https://www.facebook.com/nuridon01>



## 新潟・白根仏壇 (にいがた・しろねぶつだん)

NIIGATA-SHIRONE-BUTSUDAN

Traditional





昭和55年10月16日指定



県内最大の仏壇産地

技能の承継

昨今、従業者の高齢化に伴う技能の承継問題が叫ばれる中、組合加盟の事業所の20~30歳代の若手技術者を対象に、伝統工芸士らによる技能承継事業を積極的に進めています。若手技術者の成長を推し進めることで、今後も産地の発展が期待されます。

主な商品(税抜価格)

○100代前開 240万円 ○50代前開 170万円 ○70代前開 210万円

産地組合名

新潟仏壇組合 〒950-0324 新潟市江南区酒屋町547-3(友坂佛壇店内)  
○ 025-280-2236 ☎ 025-280-2236  
✉ haga-fba@ec2.technowave.ne.jp

白根仏壇協同組合 〒950-1217 新潟市江南区白根1240-3(新潟みなみ商工会内)  
○ 025-373-4181 ☎ 025-373-4199  
✉ n-minami@shinsyoren.or.jp  
□ <https://www.niigata-icc.or.jp/kogei/butudan/index.html>

5

**三条仏壇** (さんじょうぶつだん)  
SANJO-BUTSUDAN



ref P.III

**加茂桐箪笥** (かもきりたんす)  
KAMO-KIRI-TANSU



ref P.II

**全国最大の桐箪笥産地**

加茂産地で桐箪笥が造られるようになったのはおよそ230年以前の天明年間の頃と言われており、江戸時代の末期に加茂桐箪笥として、全国に名を馳せました。

桐の木肌のぬくもり、綺に例えられる白い艶や柱目(まさめ)の色合いは、家具の最高級品の名にふさわしいものです。【昭和51年12月15日指定】

**お客様との直接販売へ**

今では全国各地からお客様が直接、各工場を訪れ桐箪笥を注文する機会が増えました。桐たんす屋巡り(工場見学)や、桐たんす祭りの開催と、工場とお客様が直接結びついています。ページも充実しています。

**「仏都三条」**

三条地方は「仏都三条」と呼ばれるほど仏教の盛んな土地で、江戸時代中期には、北陸随一といわれる堂宇伽藍(ごうらん)を持つ東別院が建てられました。その真宗寺院を中心として浄土真宗が広まり、仏壇の製造が始まりました。塗立(ぬりたて)、梨子地塗(なしじぬり)、木目出し塗等の塗りが特徴です。

【昭和55年10月16日指定】

**新しい祈りの空間を創出**

三条仏壇× 空壇

三条仏壇と空壇の組合せで、現代アートチーム「[re]」と連携し、新しい祈りのかたちを提案していく空壇(くうだん)を提案しています。既存の仏壇の概念にとらわれることなく、新たな想像力によって職人の技術や独自の美を引き出し、現代生活に適した新しい仏壇が生まれました。これまでもに自宅やオフィス、旅館などに設置され、好評を博しています。

**主な商品(税抜価格)**

○50代前開(伝統的工芸品)	180万円~
○50代前開(従来型)	50万円~
○30代前開上置型(従来型)	30万円~

**主な商品(税抜価格)**

○伝統的総桐たんす 和たんす	50万円~100万円
○伝統的総桐たんす 小袖たんす	40万円~60万円
○モダン桐家具 チェスト	40万円~60万円

**産地組合名**

三条・燕・西蒲仏壇組合

〒959-1262 燕市水道町1-2-40(燕三仏具店内)  
① 0256-62-3756 ② 0256-62-3756  
✉ takasarabutsudan@gmail.com

**産地組合名**

加茂箪笥協同組合

〒959-1313 加茂市幸町2-2-4  
① 0256-52-0445 ② 0256-52-0428  
✉ tansukumai@ginzado.ne.jp  
✉ https://www.kamokiritansu.com/

**燕鎌起銅**  
TSUBAME-TSUIKI-DOKI

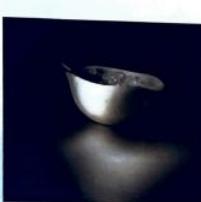
ref P.Ⅲ

**銅板に生命を吹き込む**

江戸時代中期に仙台から技術が伝わり、やかん類の生産が始まりました。鎌起とは鎌(つば)で打ち起(おこ)すという意味で、数百種類に上る金鎌と銅板から立体製品を生む技術です。

表面には化学反応による着色が施されており、使い込むほどに光沢が増すのが特徴です。

【昭和56年6月22日指定】



主な商品(税抜価格)	
○急須(400ml)	紫金色
○ぐい呑	刃鎌目黒銀
○ビールカップ	水玉

## 産地組合名

燕銅器工芸組合 〒955-1244 福島市中央通2-2-21(玉川堂内)  
 ☎ 0256-62-2015 FAX 0256-64-5945  
 ☐ info@gyokusendo.com  
 ☐ https://www.gyokusendo.com  
 ☐ https://www.facebook.com/gyokusendo



**越後三条打刃物** (えちごさんじょううちはもの)  
ECHIGO-SANJO-UCHIHAMONO

ref P.Ⅲ



## 土農具からの進化

農業に必要な道具として、江戸時代の前半頃から鎌、鋤(くわ)等の製造を行い、関東地方(わきがた)等の農家の副業として始まり、和釘(わくぎ)づくりで産地が形成されていきました。その後、包丁、鉈(かんな)、鎌(きばさみ)等、多くの種類の打刃物に発展しました。【平成21年4月28日指定】



## 「鍛冶道場」

「鍛冶道場」では、現役鍛冶職人の講師による刀物づくりの講座等、文字通り鍛冶体験の道場として、毎年県内外から多くの人が訪れます。小学児童の産業体験場として、毎年市内小学校20校から8百人余りが「和名鑄(かみねうつ)づくり」の体験を行います。高校の校外学習として刀物づくりの講座等も行っています。

## 主な商品(税抜価格)

○黒剣鎌(けんなた)両刃6寸	26,800円
○庖丁(はうちょう)出刃	10,000円
○木鉄(きばさみ)大久保2.5寸	5,000円

## 産地組合名

越後三条鍛冶集團 〒955-0072 三条市元町11-53(三条鍛冶道場内)  
 ☎ 0256-34-8081 FAX 0256-34-8081  
 ☐ kaij@city.sanjo.niigata.jp  
 ☐ https://kaijidojo.com  
 ☐ https://www.facebook.com/sanjokajidoujo

## 長岡仏壇 (ながおかぶつだん) NAGAOKA-BUTSUDAN



【昭和55年10月16日指定】

### 長岡藩の政策により普及

17世紀頃、寺院建設に全国から集まつた宮大工や仏師の内職として始まりました。その後、長岡藩が行つた浄土真宗の保護政策、また各家庭で位牌をまつる習慣が定着し仏壇を求める人が増えたことから広まつてきました。高度な彫刻技術と櫛戸板(けやき)といふ屋根式宮殿が特徴です。

次世代に託す夢

長岡仏壇の伝統技術・文化を次世代に継承していくため、継続的に地元小学校に赴き、製作体験学習会を実施しています。学習会を通じて、児童が長岡仏壇への理解を深めるとともに、将来の後継者の卵として育ついくことで、産地の継続した発展が期待されています。

#### 主な商品

- 100代 三方開 三ツ屋根造
- 50代 前開 三ツ屋根造
- 70代 三方開 六角宮殿入
- 30代 前開

#### 産地組合名

長岡地域仏壇組合

〒940-2035 長岡市関原町5-5(奥川佛壇店内)  
① 0258-46-2210 ② 0258-46-2210  
✉ butsuko@at.wakwak.com



## 越後与板打刃物 (えちごよいたうちはもの) ECHIGO-YOITA-UCHIHAMONO

ref P.11



【昭和61年3月12日指定】

### 上杉謙信ゆかりの技術

上杉謙信の家臣が16世紀頃に刀職人を招いて、打刃物を作つたのが起源とされ、刀鍛冶の高度な技術が受け継がれ、江戸中期には大工道具の産地として名声を誇りました。

与板の打刃物は、火造りの鍛造技法によるもので、その切れ味は抜群です。



古くから受け継がれてきた伝統の技術・技法を多くの人に伝える取組みを行つています。職人仕様の鍛冶場で、現役鍛冶職人による鍛接鍛造から研ぎまでの工程の熱血指導が好評を得て、県内外はもとより外国から多くの人々が訪れてています。

### 与板鍛冶体験工房

#### 主な商品

- のみ
- 錠(かんな)
- 試(まさかり)
- 新(ちような)

#### 産地組合名

越後与板打刃物組合

〒940-2402 長岡市与板町与板甲134-2(与板町商工会内)  
① 0258-72-2303 ② 0258-72-3328  
✉ yoisho@shinsyoren.or.jp  
✉ <https://www.tech-nagaoka.jp/traditional/trad001>



## 小千谷紬 (おちやつむぎ) OJIYA-TSUMUGI

ref P.IV



小千谷紬から生まれた  
多彩な縫模様の紬

小千谷紬の技法を活かして、  
江戸時代中期から生まれた  
小千谷紬。原料は玉糸と真  
綿の手紡ぎ糸で、綿独特の光沢  
と肌触りの良さ、軽く温かみの  
ある地風が魅力の縫織物です。  
手摺(てすり)り込みによる縫結縫  
(よじうがすり)の技法を駆使  
した縫模様は多彩で、素朴な味  
わいがあり、着姿は一段と見映え  
ます。【昭和50年9月4日指定】



新しい時代を築くブランド

新たな時代を築く小千谷  
ブランドとして開発された  
「Free From」(フリー・フロム)  
は、自由で柔軟な思考・行動  
をする大人のためのファッショ  
ンをテーマに、販売展開してい  
ます。「Free From」には、伝統技  
術に打ちされた、本物の  
確かさがあります。

小千谷織物同業協同組合

〒947-0028 小千谷市城内1-8-25  
① 0258-83-2328 ② 0258-83-2328  
✉ ojiya-ori@carrot.ocn.ne.jp  
✉ https://ojiya.or.jp



## 小千谷縮 (おちやちぢみ) OJIYA-CHIJIMI

ref P.IV



シボが生みだす  
清涼感のある麻縮

小千谷市周辺では古来より苧  
麻(ちやま)を原料とした麻織物  
が織られていました。江戸時代初期に改良され、縫(よじ)糸に強い  
撚(ねり)かけ織り上げた後、「  
湯もみを行い、独特のシボ(しゆう)  
を出すことで小千谷縮が誕生し  
ました。独特のシボによって肌に  
べつかず、さわやかな着心地で、  
優れた通気性と吸湿性を持つた  
清涼感あふれる夏物着尺地で  
す。【昭和50年9月4日指定】

谷縮(小千谷市)越後上布(南  
魚沼市)は、平成21年にユネス  
コの無形文化遺産に登録され  
ました。これはユネスコが伝統  
芸能や工芸技術等を、世界共  
通の遺産として保護するため  
にリスト化しているもので、令  
和5年1月現在、日本からの登  
録数は22件にのぼります。  
当地域の春  
の風物詩である「雪さらし」  
は、重要な無形  
文化財「小千谷  
縮越後上布」  
指定工程の1  
つです。



染織部門で日本初の快挙  
ユネスコ無形文化遺産登録

主な商品

○小千谷紬(縫着尺地)

産地組合名

小千谷織物同業協同組合 〒947-0028 小千谷市城内1-8-25  
① 0258-83-2328 ② 0258-83-2328  
✉ ojiya-ori@carrot.ocn.ne.jp  
✉ https://ojiya.or.jp

Traditional Crafts of NIIGATA

## 本塩沢 (ほんしおざわ) HON-SHOZAWA

ref P.IV

塩沢紬 (しおざわつむぎ)  
SHIOZAWA TSUMUGI

ref P.IV

**蚊絣 (かがすり) と  
呼ばれる繊細な耕模様**

ユネスコ無形文化遺産に登録されている国的重要無形文化財「越後上布」(麻織物)の技術・技法を綿織物に受け継ぎ、18世紀後半に誕生した塩沢紬は、真綿特有のやわらかさと蚊絣(かがすり)と呼ばれる繊細な耕模様が着きを兼ね備えています。

【昭和50年2月17日指定】

**児童教育による  
产地の活性化**

伝統工芸士を地域の学校に派遣し、地元児童に塩沢紬本塩沢の歴史説明や製品、工程に直接触れる機会を提供しています。児童の伝統文化に対する理解と関心を少しずつ高め、产地活性化を図る重要な取組となっています。

**主な商品**

○本塩沢(絹着尺地)

産地組合名

塩沢織物工業協同組合

〒949-6435 南魚沼市目来田107-1  
① 025-782-1127 ② 025-782-1128  
✉ siozawairimono@winne.ocn.ne.jp  
🌐 https://www.facebook.com/siozawairimono/

**主な商品**

○塩沢紬(絹着尺地)

産地組合名

塩沢織物工業協同組合

〒949-6435 南魚沼市目来田107-1  
① 025-782-1127 ② 025-782-1128  
✉ siozawairimono@winne.ocn.ne.jp  
🌐 https://www.facebook.com/siozawairimono/

16

15

新潟県の伝統的工芸品  
Traditional Crafts of NIIGATA

**十日町明石ちぢみ**  
TOKAMACHI-AKASHI-CHIJIMI (とおかまちあかしちぢみ)



ref P.IV

**夏着尺の代表**

19世紀のはじめ、伝統的な越後縞(麻縞物)の技法を継ぎ、19世紀中応用して創編された透縞縞(すきやおり)を源流としています。横糸に強捻(きょうねん)を加え、湯もみをして独特の「しぶき」をつくり出しますが、清涼感あふれるシャリ感とした薄地風が最大の特徴です。

【昭和57年11月1日指定】

**十日町絣** (とおかまちがすり)  
TOKAMACHI-GASURI



ref P.IV

**織細な絣模様を表現**

伝統的な越後縞(麻縞物)の技法を受け継ぎ、19世紀中頃に絹織物に応用して誕生しました。縦縞と横縞を自在に駆使して表現する織細な絣模様が、絹の光沢と結びついて落ち着いた風合いを出します。先染織物の代表作品として愛されています。

【昭和57年11月1日指定】

**きものを体感**

イベントや施設が充実



十日町産地では、春の「きものまつり」、夏の「民謡流し」、秋の「縞合新作発表会」、冬の「雪まつり」など四季折々のイベントを通じて着物を発信しています。また、工房見学、製作体験や着付体験などは随時受け入れています。

**全国有数のきもの総合産地**

十日町縞、十日町明石ちぢみ等の先染め商品の産地であつた十日町は、昭和30年代後半から、産地独自の「工場・販賣産」による後染めの友禅商品を開発し、全国有数のきもの総合産地として発展しました。

後染め技法である「十日町友禅」による振袖や訪問着、令和4年5月に「新潟県伝統工芸品」に指定されました。

**主な商品**

○十日町明石ちぢみ(夏用絣着尺地)

**産地組合名**

十日町織物工業協同組合 〒948-0003 十日町市本町6 クロステン4階  
① 025-757-9111 ② 025-757-9116  
✉ torikumi@mail.tiara.or.jp  
✉ https://www.tokamachi-torikumi.or.jp

**主な商品**

○十日町絣(絣着尺地)

**産地組合名**

十日町縞物工業協同組合 〒948-0003 十日町市本町6 クロステン4階  
① 025-757-9111 ② 025-757-9116  
✉ torikumi@mail.tiara.or.jp  
✉ https://www.tokamachi-torikumi.or.jp

● SANJO-BUTSUDAN

Area: Sanjo-shi, Tsubame-shi, Niigata-shi

There are FIVE special artisans on each process, wood works, carving, metal works, urushi (lacquer) painting and drawing. This is a common way among three Butsudan manufacturers in Niigata. Their techniques of making metal fittings are highly praised in Sanjo and Tsubame.



Sanjo-Tsubame-Nishikan Butsudan Association

c/o Takasano Butsudan Shop  
1-2-40 Suido-cho, Tsubame-shi 959-1262  
FAX 0256-62-3756 [takasanbutsugu@gmail.com](mailto:takasanbutsugu@gmail.com)

● ECHIGO-SANJO-UCHIHAMONO

Area: Sanjo-shi

Many of blade producers of large and small (blacksmith) have set up workshops in Sanjo. The sharp knives are also used by internationally acclaimed chefs all over the world.



Member of Echigo Sanjo Blacksmith Group, c/o Sanjo Blacksmith Training Hall  
11-53 Motomachi, Sanjo-shi 955-0072 ☎ 0256-34-8080 FAX 0256-34-8081  
[kajidojo@city.sanjo.niigata.jp](mailto:kajidojo@city.sanjo.niigata.jp) <https://kajidojo.com>  
<https://www.facebook.com/sanjokajidoujo>

● TSUBAME-TSUJIKI-DOKI

Area: Tsubame-shi

Tsujiki is a metal working technique that is derived from the words 'hammer' (鎚 tsuji) and 'raise' (起 ki). Various types of hammers and anvil stakes are used by artisans in this discipline. After shaping is complete, the piece is individually colored using oxidation methods developed over many generations.



Tsubame-doki Industrial Arts Association, c/o Gyokusendo

2-2-21 Chuo-Dori, Tsubame-shi 959-1244 ☎ 0256-62-2015 FAX 0256-64-5945  
[info@gyokusendo.com](mailto:info@gyokusendo.com) <https://www.gyokusendo.com/er/>  
<https://www.facebook.com/gyokusendo>

● ECHIGO-YOITA-UCHIHAMONO

Area: Nagaoka-shi

Echigo-yoita-uchihamono is famous for its excellent carpentry tools. The original technique came from making samurai swords. Nowadays, the unique products are used globally.



Echigo-yoita-uchihamono Association, c/o Yoita-machi Business and Industry Society

134-2 Yoita-ko, Yoita-machi, Nagaoka-shi 940-2402  
FAX 0258-72-2303 [yoisho@shinsyoren.or.jp](mailto:yoisho@shinsyoren.or.jp)  
<https://www.tech-nagaoka.jp/traditional/ftrad001>

● NAGAOKA-BUTSUDAN

Area: Nagaoka-shi, Ojiya-shi, Tokamachi-shi

It was in the middle of the 17th century when household Buddhist altars became common fixtures in the homes of ordinary families. Butsudan could last over 100 years by repairing each part separately. Nagaoka-butsudan is characterized by their highly developed expertise in wood carving for its 3D effect.



Nagaoka Area Butsudan Association, c/o Hirokawa Butsudan Shop

5-5 Sekihara-cho, Nagaoka-shi 940-2035  
FAX 0258-46-2210 [butsuko@at.wakwak.com](mailto:butsuko@at.wakwak.com)

● OJIYA-CHIJIMI

Area: Ojiya-shi, Nagaoka-shi, Tokamachi-shi

Ojiya-chijimi originated from, Echigo-asafu (hemp cloth), has been officially recognized as 'Important Intangible Cultural Heritage' by The Minister of Education, Culture, Sports, Science and Technology since 1955, and has also been listed as UNESCO Intangible Cultural Heritage in 2009. You may see the woven cloth rolled out in plain white, and the pattern become more alive. They invented a method sun-drying in the finishing process, which makes the garment cool in place.



● OJIYA-TSUMUGI

Ojiya-tsumugi uses Ojiya-chijimi technique. It has a textured and luster particular to silk. You can enjoy viewing weaving and experience simple plane weaving on a loom at the center below.

Ojiya Woven Textiles Professional Cooperative Association  
1-8-25 Jonai Ojiya-shi 947-0028 ☎ 0258-83-2329 FAX 0258-83-2328  
[ojija-ori@carrot.ocn.ne.jp](mailto:ojija-ori@carrot.ocn.ne.jp) <https://ojija.or.jp>

● SHIOZAWA-TSUMUGI

Area: Minamiuonuma-shi

It is based on the Echigo-jofu (hemp cloth) style silk weaving. Echigo-jofu has been officially recognized as 'Important Intangible Cultural Heritage' by The Minister of Education, Culture, Sports, Science and Technology since 1955, and has also been listed as UNESCO Intangible Cultural Heritage in 2009. As the craftsmen are committed to hand the technique down to the next generation, local elementary school children are taught the process of making Echigo-jofu, and can participate in a part of the making in each season.



● HON-SHOZAWA

It has creases characteristic to Hon-shiozawa silk cloth. It is an elegant weave, characterized by its minute pattern of cross-shaped or tortoise shell as Shiozawa-tsumugi.

Shiozawa Woven Textiles Industry Cooperative Association  
107-1 Mokuraiden, Minamiuonuma-shi 949-6435  
FAX 025-782-1127 [siozawaorimon@wine.ocn.ne.jp](mailto:siozawaorimon@wine.ocn.ne.jp)  
<https://www.facebook.com/shiozawaorimon/>



● TOKAMACHI-GASURI

Area: Tokamachi-shi, Tsunun-machi

The exquisite patterns are created with the Kasuri technique. Each thread of silk is dyed with a specific pattern in order to produce beautiful traditional cloths as well as gorgeous contemporary ones.



● TOKAMACHI-AKASHI-CHIJIMI

Area: Tokamachi-shi

Tokamachi-akashi-chijimi cloth is distinctive with a beautiful crinkled texture. The almost see-through look makes a lovely summer kimono. Tokamachi is one of the largest kimono cloth production areas in Japan. It is known for fabrics which are dyed before and dyed after woven. A big kimono festival is held on 3rd May every year. You can enjoy wearing kimono and visiting a local flea market.

Tokamachi Woven Textiles Industry Cooperative Association  
4th Floor 6 Hon-cho, Tokamachi-shi 948-0003 ☎ 025-757-9111 FAX 025-757-9116  
[t.orikumi@mail.tiara.or.jp](mailto:t.orikumi@mail.tiara.or.jp) <https://www.tokamachi-akashi.com>



Published by General Incorporated

**Traditional Craft Products of NIIGATA Designated by Ministry of Economy, Trade and Industry**

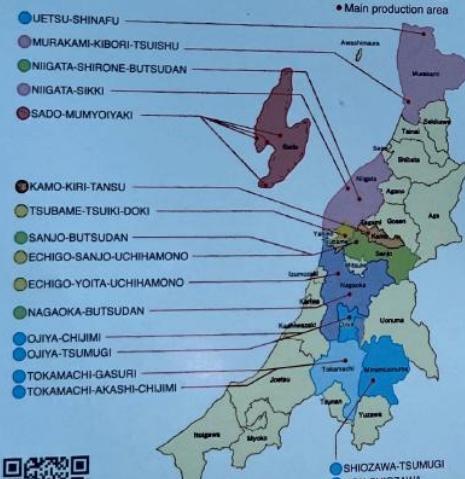
Japan has been home to a variety of crafted items used in everyday life since ancient times, each using materials, skills, and technology unique to each region and passed down from one generation to the next. Among these regional crafts, 243 items have been officially recognized and awarded the status of Traditional Craft by the Ministry of Economy, Trade and Industry as of October 2024. Niigata has the 2nd largest concentration of Traditional Craft Products in Japan. Currently, 14 regions produce 17 different items.

Items legally designated as a Traditional Crafts must be:

- primarily used in everyday life.
- primarily hand-made.
- made with traditional skills and techniques that have been in use for over 100 years.
- made with the same materials that were used historically
- made as part of an established regional enterprise

Products that meet these requirements are designated Traditional Crafts and may use the Traditional Craft mark on their label.

● Weaving ● Household Buddhist Altars(Butsudan)  
● Metalwork ● Lacquerware ● Woodcraft ● Ceramics



Traditional Crafts in NIIGATA  
<https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/chikishinko/1356804126082.html>

● UETSU-SHINAFU

Area: Tsuruoka-shi, YAMAGATA  
Murakami-shi, NIIGATA

Shinafu has been woven in Uetsu region since the Jomon (ca.10,000B.C.-400B.C.) and Yayoi (ca. 400B.C.-300 A.C.) era. The cloth is woven with linden bark fiber. It is regarded as one of the three oldest woven cloths in Japan.



Sanpoku Narawai no Sato Industrial Union

325 Yamakura-mura, Murakami-shi, NIIGATA 959-3917

TEL 0254-76-2115 □ <http://www.wafune.net/jp/sanpokushokai/narawai/narawai-nosato.html>

FAX 0254-76-2115 □ <http://www.wafune.net/jp/sanpokushokai/narawai/narawai-nosato.html>

● MURAKAMI-KIBORI-TSUISHU

Area: Murakami-shi

Murakami-kibori-tsuishu is famous for its wood carving and red lacquered finish. The matt surface is very unique to the product. You can enjoy its polished effect as it becomes glossier for a longer use.



Murakami-tsuishu Cooperative Association c/o Murakami-kibori-tsuishu Center

3-1-15 Matsubara-cho, Murakami-shi 958-0032 □ 0254-53-1745 □ 0254-53-3053

TEL 0254-53-1745 □ <http://tsuishukumi@aq.wakwak.com>

FAX 0254-53-3053 □ <https://tsuishukumi.jp>

□ <https://www.facebook.com/村上塗朱事業協同組合-1608090169282294/>

● SADO-MUMYOIYAKI

Area: Sado-shi

Sado-mumyoiyaki is made from red clay with a high iron oxide content from Sado Island, and the process began in the early 19th century with Raku ware made from red clay, and was completed in the Meiji era (1868-1912) with today's very hard Mumyoiyaki, which is fired at high temperatures.



Sado Mumyoiyaki Association c/o Mumyo Ceramics Ito Sekisui

1-1 Akawara, Sado-shi 952-1557 □ 0259-74-2127

● NIIGATA-SHIRONE-BUTSUDAN

Area: Niigata-shi

Butsudan is a Buddhist household altar, which contains an image of Buddha and the family ancestral mortuary tablets. Niigata-Shirone is known for producing lavishly decorated Buddhist altars, and the largest production area in Niigata.



Niigata-butsudan Association c/o Tomosaka Butsudan Shop

547-3 Sakaya-cho, Konan-ku, Niigata-shi 950-0324 □ 025-280-2236

TEL 025-280-2236 □ <http://haga-ha@ec2.technowave.ne.jp>

Shirone-butsudan Cooperative Association c/o Niigata Minami Business and Industry Society

1240-3 Shirone, Minami-ku, Niigata-shi 950-1217 □ 025-373-4191 □ 025-373-4199

□ <https://www.niigata-ipco.or.jp/kogei/butudan/index.html>

● NIIGATA-SHIKKI

Area: Niigata-shi, Kamo-shi

It has been said that the Niigata style lacquerware was started in the early Edo period. Although various lacquering techniques have been practiced, the region still continues to specialize in take-nuri, a perfect reproduction of bamboo through lacquering. It is only practiced in this area.



Niigata-shi Shikki Trade Union c/o Niigata Shikki Manufacturing

879-9 Iwamuro-Onsen, Nishikan-ku, Niigata-shi 953-0104

TEL 0256-77-5451 □ 0256-77-5451 □ [contact@niigatasikki.jp](mailto:contact@niigatasikki.jp)

□ <http://niigatasikki.jp> □ <https://www.facebook.com/huridon01>

● KAMO-KIRI-TANSU

Area: Kamo-shi

Due to the high humidity in Japan, the chest is made of kiri (paulownia). Since olden times, it is considered an ideal material for containers in which you can keep expensive clothes such as cashmere, wools and silks. The chest is famous for keeping the temperature and its moisture contents at a certain level so that it can protect goods even in fire.



Kamo-tansu Cooperative Association

2-2-4 Sawai-cho, Kamo-shi 959-1313 □ 0256-52-0445 □ 0256-52-0428

TEL 0256-52-0445 □ <http://tansukumi@ginzado.ne.jp>

□ <https://www.kamokirtansu.com/>



# Traditional Crafts of NIIGATA



**Regional Industry  
Promotion Division**  
Department of Industry and Labor

TEL 025-280-5243  
FAX 025-280-5278  
Email [ngt050100@pref.niigata.lg.jp](mailto:ngt050100@pref.niigata.lg.jp)